

前橋南「粘」

Pick Up!



吉岡飛翔
(2年=左翼手)

3番、レフトの副将。広角に鋭い打球を飛ばすクラッチヒッター

主役



割田遼大
(2年=捕手)

パワフルなスイングから長打を放つ主砲。攻守の核となるプレーヤー

礼を正し、場を清め、時を守り、力をつける



公立進学校の新たな取り組み 選手主体の「プレーヤーズジャッジ」

公立進学校・前橋南に新たな風が吹き始めた。選手たちは、自らで考えながらトレーニングに励み、新たな道を切り拓いていく。

■今秋から新指揮官でスタート

大きなポテンシャルを秘めたチームだ。2018年まで大須賀誠一監督、2021年夏までは福島清隆監督が指揮。前橋南の選手たちの特長を生かしながら、活気あふれるチームを築き上げてきた。そして今秋から、前・前橋高指揮官の安田智則監督が就任した。2019年春に前橋南へ着任し2年半にわたり野球部部長を務めてきたが、新チーム始動のタイミングでバトンを受け取るようになった。部員数は2年生7人、1年生8人の計15人。コロナ禍で練習時間が制限された中でスタートとなったが、グラウンドには選手たちの活気あふれる声が響くようになってきた。新指揮官は、選手たち

の力を引き出しながらチームを構築している。

■選手たち同士が考えてプレー

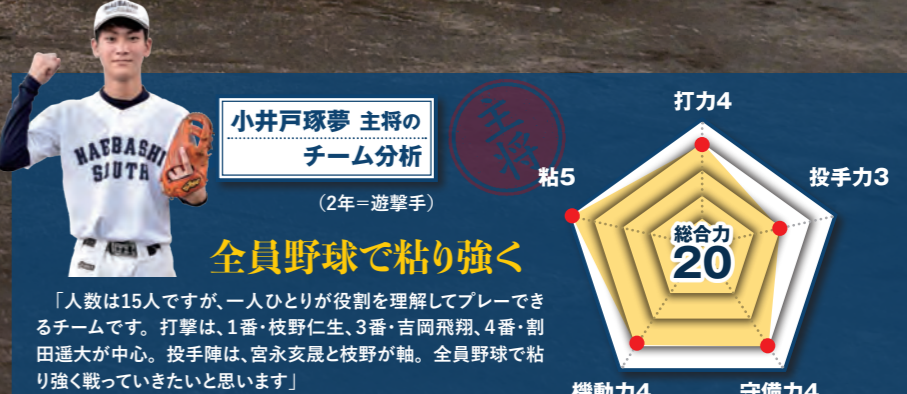
安田監督の脳裏には、前任の前橋高時代の2018年度にトライし手応えをつかんでいた指導法があった。選手主体の「プレーヤーズジャッジ」だ。監督と選手が戦略を共有しながら、選手たち自らのシグナル(サイン)で行動する野球。選手たちだけで判断する「ノーサイン」とは一線を画す。3年ぶりに指揮を執る安田監督は、前橋南で選手主体の「プレーヤーズジャッジ」を取り入れていった。練習は、チームの方向性を確認する場。試合では、監督がサインを出さず、選手たち同士が考えてプレーしていく。指揮官は「選手自身が考えることで100%以上の力を発揮することがあります。簡単な方法ではないと思いますが、選手たちが自分たちの意志で思い切ってプレーしていく、そんなチームにしたいと思っています」と話す。

副将の吉岡飛翔(2年=外野手)が「いまは失敗の方が多くありますが、自分たちで判断することで、野球について深く考えるようになりました」と話せば、小井戸琢夢主将(2年=内野手)は「野球を、より楽しめるようになっています」と変化を実感する。新たなチャレンジが、選手そしてチームを成長させている。

■選手の意志が進化の原動力

部員数は15人と決して多くはないが、学年の枠を超えたフラットな競争によって1年生も力を伸ばす。今季のチームのスローガンは「粘」。チームの課題を話し合う中で、選手たち自身が決めた言葉だ。攻守に粘り強く戦い、最後まで食らいついていくことを目指す。そのためは、日々の練習から「粘」を表現する必要があるという。全員野球を志すチームは、各選手の個性をチームにインプットすることでスケールアップを試みる。打撃の軸は、1番・枝野仁生

(2年=内野手・投手)、3番・吉岡、4番・割田遼大(2年=捕手)。1年生の黒澤風太朗(内野手・投手)も打率を伸ばす。投手陣は宮永玄晟(2年)、枝野のほか平形陽哉(1年)らがマウンドに立つ。守備では、ショートの小井戸主将、センターの田所宙(2年)が果敢なプレーをみせていく。チームは未完成だが、伸びしろは十分。前橋南の主役は、監督ではなく選手。選手の意志によって、チームは進化していく。



**小井戸琢夢 主将の
チーム分析**
(2年=遊撃手)

全員野球で粘り強く

「人数は15人ですが、一人ひとりが役割を理解してプレーできるチームです。打撃は、1番・枝野仁生、3番・吉岡飛翔、4番・割田遼大が中心。投手陣は、宮永玄晟と枝野が軸。全員野球で粘り強く戦っていききたいと思います」

打力4
投手力3
粘5
守備力4
機動力4
総合力20

前橋南高校

【住所】群馬県前橋市亀里町1
【創立】1976年
【甲子園歴】なし
昭和51年に前橋市南地区に開校した県立高校。文武両道の進学校。運動部のほか文化部も盛ん。主な卒業生は、写真家でモデルの川辺優紀子



前橋南・安田智則監督 野球部の主役は選手たち

「選手たち自らが考えて100%以上の力を発揮していくチームにしたいと考えています。野球部の主役は、選手。そのためには選手が野球を楽しむことが大切。野球が大好きな選手たちが、放課後にグラウンドへ飛び出してくるような雰囲気ของทีมにしたいと思っています」

1975年群馬県生まれ。前橋高→早稲田大。嬉遊、玉村の監督を経て母校・前橋監督に就任。2019年春に前橋南へ異動し野球部部長、2021年秋から監督。